

原子力災害地域における被災者の意見・要望の変化**－双葉町における「住民意向調査」の自由記述の分析から－**

○ 東日本国際大学 健康福祉学部 前田佳宏 (8208)

キーワード：被災者支援、東日本大震災、計量テキスト分析

1. 研究目的

本研究では福島第一原発力発電所による原子力災害の被災地域であり、直近で避難指示区域一部解除となった双葉町に焦点を当て、住民の意見・要望が震災後10年経過し、どう変化したかを検討する。具体的には、帰還にはどのような思いや要望があるか、『住民意向調査』の結果から、自由記述回答の特徴と変化について、計量テキスト分析を用いて明らかにする。

2. 研究の視点および方法

復興庁のホームページで公開されている『住民意向調査』（24年～令和2年度）の双葉町住民意向調査の「意見・要望」という自由記述欄を対象とした。年度ごとになっているデータに3年ごとの前期・中期・後期という区分を与えた。各期の特徴的な語や各期の変化などを検討した。分析にはKHコーダーを用い、分析手続きは、樋口(2014)の手順を参考に進めた。初めに、前処理における語の取舍選択では、「除/染」「廃/炉」などのように1つの語として抽出したいものを強制抽出した。未知語を確認、KWICコンコーダンス分析を用いて抽出語を確認、複合語の検出、一般的すぎる語の取り除き等の手続きを行った。

3. 倫理的配慮

本分析では、社会福祉学会研究倫理規程を踏まえ、公開されているデータの分析であるが、そこからさらに個人が特定されないよう、回答者の年代の表記を削除し分析した。

4. 研究結果

KHコーダーによる分析から、9年の住民意向調査の「意見・要望」を分析した。2,055文、788段落、総抽出語数40,249（使用：16,971）、異なり語数3,509（使用：2,950）が得られた。

(1)多く出現している言葉

まず、9年間分の調査の自由記述（意見・要望）の中で多く出現している言葉にどんなものがあつたのか確認する。抽出語で頻出150語を確認した。

まず、「双葉」「復興」「町」「生活」など、双葉町の復興や生活について非常に多く出現していることがわかる。他には特殊な言葉として「国」（168回）が多く出現していることが見て取れる。双葉町においては原子力発電所に近いという地域であり、国への賠償を求める記述や、国の判断や責任を求める記述がある。例として「東電に責任をおしつけすぎ、国も悪い」などがある。

(2)それぞれの期で特徴的な言葉

意見・要望の時間経過と変化を調べるため、前期・中期・後期において、特に多く出現している言葉、すなわちそれぞれの期を特徴づけるような言葉を確認する。

① 前期（24年度～26年度）

「前期」においては、「復興」という言葉が一番多く、「1日でも早く戻りたいので、早急に復興をお願いします」など、復興への要望が見られる。「原発」という言葉では、原発の安全性や廃炉について意見、「賠償」という言葉では、具体的な賠償を求める声が多い。以上から、前期は早く帰還したい一方で、原発の安全性への不安や、被災の賠償を求める気持ちが表出されている。

② 中期（27年度～29年度）

中期では「除染」「避難」という言葉が特徴づける語として出現している。除染が進む中で廃棄物や、除染されていない場所の問題が意見されている。時間の経過があり、長くなった避難生活に対する周囲の見る目や、住宅の劣化などの意見も見られる。

③ 後期（平成30年～令和2年度）

後期では「戻る」「支援」「今後」という言葉が頻出している。これらの言葉は前期・中期では多くなかった言葉である。「戻る」では、戻らないという意見も多く見られるようになってきている。避難生活の長さから戻る気持ちがなくなっている、現実的ではなくなっている様子が回答から見える。「支援」では、復興が進む一方で「支援」の「継続」について不安の声が聴かれる。これらの意見は避難解除＝帰還ではなく、避難解除＝支援の解除という不安ではないかと考えられる。「今後」は見通しを聴きたいという意見であり、今後どうなっていくか、という不安の表れでもある。「戻らないと決めていますけどどうなっていくのか心配です」などがある。

5. 考察

前期は早く帰還したい一方で、原発の安全性への不安や、賠償を求める気持ちが表出されている。中期は除染が進む中で廃棄物や、除染されていない場所の問題、時間の経過による住宅の劣化などの意見が見られる。後期は、将来的なこと、また支援の継続に関する不安、もう戻らない（帰還しない）という意見が出てきている。長期に渡り、避難生活が続く中で意見や要望も変化していることが明らかになった。

注 復興庁『原子力被災自治体における住民意向調査』

(<https://www.reconstruction.go.jp/topics/main-cat1/sub-cat1-4/ikoucyousa/>)

文献

樋口耕一(2014)『社会調査のための計量テキスト分析—内容分析の継承と発展を目指して—』ナカニシヤ出版。